

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス リブハート御笠川			公表日		2025年 8月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・児童数や活動内容に応じて、支援室を仕切り、支援を行っている。・人数によって環境調整をしている。・遊戯室、トイレなど必要なスペースが確保できている。適切に確保できている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		・配置基準を満たしている。	・人数的には適切であるが、ニーズに応じてセラピストの補充を積極的に行いたい。・セラピストを増員することで支援の幅が広がると思う。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○	○		・2階建ての2階に支援室があるためバリアフリーではない。・階段には手すりが設置されている。・2階の支援室には段差がない造りになっている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日、清掃を徹底している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・静かな環境で宿題が出来るよう学習室がある。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・半年ごとに事業所の目標と個人の目標を見直しており、上司と一緒に振り返りを行っている。・個人目標はそれぞれが書き出し、常に見えるところに置いて可視化できるようにしている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者アンケートを実施し、結果を共有している。また、意見や要望があった場合は迅速に対応し、改善を心がけている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・毎月会議を行い、意見を出し合っている。また、定期的に個人面談を行い、フィードバックを行っている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・外部評価は行ったことがない。必要に応じて実施していきたい。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・本社、事業所内外の研修に加え、ジョブモデルアカデミーの動画研修を毎月全員が行っている。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・毎月、プログラム会議を実施し、その内容をインスタ、HP等で公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・契約時、その後は半年ごとにアセスメントを行い、個別支援計画、専門的支援実施計画、モニタリング作成を行っている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・適宜、支援会議を行いそれぞれの児童のより良い支援の方法を話し合っている。必要に応じて、計画相談への報告や相談等も行っている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・保護者の同意を得た支援計画の則り、日々の支援を行っている。個別支援計画をPCで管理しており、いつでもスタッフが閲覧できる状態である。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・ケース記録を日々入力しているため、児童の課題を抽出しやすい。また、その課題についてスタッフ間で共有することができている。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・ガイドラインに沿った個別支援計画を立て、ケース記録や支援会議を通してそれぞれの児童の課題を洗い出し、支援に繋げている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・毎月プログラム会議を行い、5領域に沿ったプログラムを計画している。また、保護者からの要望が多いビジョントレーニングなどもプログラムに盛り込んで。プログラムのネーミングにも力を入れている。			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・毎日、内容の異なる活動を行っている。プログラム会議の際は、プログラムの内容が被っていないかのチェックもやっている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・基本的には小集団で行っているが、ニーズがあれば短時間の個別活動も視野に入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	○	・プログラム担当者が、その日の内容を共有し、マンツーマンでスタッフがつく児童の把握などを行っている。・支援内容や注意点などの事前確認を行っている。	・十分に時間が取れていない日もある。・打ち合わせまでは行えていないが、重要なことは伝達するようにしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○		・打ち合わせをする時間が取れないことがあるが、終礼時などで必ず共有は行っている。また、後日話し合えるようにケース記録を残している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・毎日、ケース記録の記入を行い、今後の対応の参考にしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・半年に一回、再アセスメントを行い、モニタリングや個別支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		・ガイドラインに沿った支援を心がけている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・どの児童でも自己決定できるように、はじめは少ない選択肢から選び、徐々に選択しを増やす工夫をしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・管理者や現場のリーダー的なスタッフが参加している。（若いスタッフでも、人数に余裕がある時は経験を積むために参加することもある）	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・協力医療機関は決まっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・送迎時間の遅れなどは共有しているが年間計画等は保護者に尋ねている。送迎の際、学校での様子を教えていただいている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・保育園や幼稚園からの報告はないが、児発に通っていた児童は、引継ぎ書類や報告書をいただくことがある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		・まだ該当する児童がいないが、必要に応じて連携していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	○	・外部研修を受けている。	・地域の児童発達支援センターと、個人的なつながりはある。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		・まだ行ったことはないため、今後交流する機会を作っていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	○	・行く機会があるのは管理者だけなので、今後若手のスタッフも参加できるようにしていきたい。	・現在は管理者しか行く機会がない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・送迎時やLINE、連絡帳でお子様の様子をお伝えし、密に情報共有をしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		・ペアレントトレーニングの機会はないが、性教育の講演会などは行っている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明を行い、不明な点については随時対応しています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		アセスメント時に、保護者様やお子様から意向の確認を行い、個別支援計画書に反映しています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画書の説明時に支援内容の説明を丁寧に行い、同意を得ています。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・基本的には対面で、時間が取れない保護者に電話で、電話にも出られない場合はLINEで対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		・夏休み中に、保護者参加型イベントを行った。好評だったので今後もそのような機会を積極的に設けていきたい。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・苦情解決責任者を選任し、苦情があった際には誠意をもって速やかに対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・SNSを利用し、担当者が毎日、日々の様子や事業所の取り組みについて発信している。また、プログラムは2か月前に公表している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人ファイルは鍵付きの書庫で管理し、個人情報がかかれたものは小さなメモであっても確実にシュレッダーをかけている。細心の注意を払うことを徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・言葉だけのやり取りではなく、情報を可視化するなどして丁寧に対応している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・立地上、工場や企業が多いため、なかなかそのような機会がないが、今後は隣接しているステンレス工場の見学をさせてもらう段取りをしている。なるべく地域の方と交流できる機会を作りたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	○	・各種マニュアルを策定し、HPやSNSでの発信を行っている。また定期的に避難訓練も行っている。	・保護者に周知しているつもりだったが、今回のアンケートで十分ではなかったと感じた。今後はしっかり周知できるようにしていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・定期的に様々な災害を想定した避難訓練を行っている。また、日ごろからローリングストックを行うなど、災害に備えている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・契約時に、児童の持病や服薬している薬についてしっかりヒアリングを行い、副作用などの予測を行いながら支援を行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		・重度のアレルギーの児童がいない。軽度の児童については、契約時に詳しく聞き取りを行い対応している。保護者からの指示書の提出はない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。			・安全計画をHPで公表している。定期的に訓練や研修を行い安全管理に努めている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・HPで公表し、安全管理を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・毎月の会議でヒヤリハットの事例検討を行い、必ず記録を残しスタッフ全員で共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・外部講師による研修会や、eラーニングの研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・基本的には身体拘束は出来ないものと理解した上で、命にかかわる時のみ身体拘束の可能性があるので十分に説明し、同意書にサインをいただいている。	